



無機化学 vs 生物・有機



今年も暑い季節がやってきた。野副杯のシーズンである。

我が無機化学研究室では飛田先生の「優勝したらお寿司をおごりますよ」の発言につられ、日ごろまともなものを食べていない飢えた野郎共（約一名除く）が研鑽を重ね、この場に臨む。今年の無機化学研究室はスラッガーM（B4）を筆頭に、ポップスターN（M2）などの打撃陣、投げてはエースのスロースターターS（M1）が、さらにはデカスリートS（D1）や『The 忍』A（B4）などの走塁特化の逸材が、さらにはじゃんけんマイスターM（B4）やハイプレッシャーH（講師、現・助教）などが揃い、順調に（二回戦はじゃんけん勝ちだったけど）勝ち進んでいた。

そして臨んだ準決勝。それは川内グラウンドは日の照りつける残暑の厳しい午後だった。試合前から、相手には野球部のエース級が居るとの噂を聞き、緊張しながら試合に臨んだ我々だったが、現場について予想外の事実を耳にする。

向こうのエースがまだ到着していない！
どうやら何か用があったらしいのだが、詳細は不明。



兎にも角にも試合開始。

予想に反し、試合は序盤からこちらのペースで進む。

珍しく序盤から調子の良いピッチャーS、そして好調な打線。初回、二回と連続して点を入れ、5対2とリードして中盤を折り返す。向こうは打線が繋がらず、点差以上に雰囲気はこちらが有利という状況。



暑さにだれるベンチ



我らがエースS

そして回も進み、もう八割方勝負は決まっただろう。
そんな空気さえ漂い始めたときだった。

ジャーン！ジャーン！ジャーン！ 「げえっ、関！？」

そんな効果音と声が聞こえた気がした。いや、幻聴だけど。多分。
相手のエース、O君が遅ればせながら到着したのだ。すぐに彼が投球練習を始めたのだが、
すでに音からしてうちのピッチャーとはものが違う……。たった数分の投球練習でさっきまでのイケ
イケムードはどこへやら。
そして築かれる三振の山、山、山……。



結局その後は得点どころかボールが前に飛ぶことすらほとんど無く、一方で相手側はスーパーエースを筆頭に復活した打撃陣があっという間にリードを打ち崩していく。
もはや完全に流れは向こうに傾いてしまった。そして気付けば逆転負けっ……！



ざんねん！ とびたけんの ちょうせん は おわって しまった！

そして寿司を食い損ねた敗残兵はとぼとぼと青葉山に帰っていった。
だが彼らの心に寿司への渴望がある限り、来年もまた熱き戦いが繰り広げられるだろう！

完

追伸

飛田先生、お寿司もいいいけど来年は『この世のものとは思えないプリン』がいいと思います。